

令和 2 年度第 1 回ふれあい座談会

主催	ふじみ野市手をつなぐ育成会
テーマ	福祉施策について
日時	令和 2 年 11 月 29 日(日)午後 1 時 30 分～3 時 00 分
場所	大井中央公民館 大会議室
参加者	10 名
市出席者	ふじみ野市長、障がい福祉課長、学校教育課長、広報広聴課長、広報広聴課主事

《主な意見等》

広報広聴課長

それでは、これよりふじみ野市手をつなぐ育成会様とのふれあい座談会を開催させていただきます。始めに、高畑博ふじみ野市長よりご挨拶を申し上げます。

《市長挨拶》

広報広聴課長

続いて、ふじみ野市手をつなぐ育成会の会長様よりご挨拶をいただければと思います。また、これより先の会の進行につきましては、ふじみ野市手をつなぐ育成会様にお願いいたします。

《ふじみ野市手をつなぐ育成会会長挨拶》

司会

それでは、進めさせていただきます。事前に質問を提出し、回答をいただいています。その中の 1 番と 10 番を中心に話をしていき、その後全体に関する質問事項を進めていきたいと思えます。事前質問 1 をお読みいただいたうえで質問のある方は、いらっしゃいますか。

【事前質問 1】

重度の知的障がい者は、親なき後入所施設かグループホームに入らざるを得ません。私たち「手をつなぐ育成会」の今までの活動を支えてきた親の高齢化が進んでいます。また障がい者自身の高齢化も進み、入所施設の設立が切実になってきています。遠方の施設では、親子ともに何かあっても駆けつけることが年齢とともに難しくなっています。できれば親子ともに、この住み慣れたふじみ野市で生活していきたいのです。現在、ふじみ野市・富士見

市・三芳町の二市一町には施設が不足しています。ふじみ野市としてはこの点についてどのように進めていこうとお考えですか？

【事前質問1回答】

障がいのある・なしに関わらず、住み慣れた地域で過ごすことができることが理想です。そのためにはグループホームの充実はもちろん、居宅介護等の介護等給付、就労継続支援等の訓練等給付を充実させ、在宅での生活を安定させることも必要です。また、様々な事情でグループホームや在宅等の地域での生活が難しい方がいらっしゃることを考えると、入所施設の必要性も否定することはできません。今後は、今ある資源を有効活用するため民間事業者や関係機関と連携し、暮らしの場の確保を目指してまいります。

参加者

先日、手をつなぐ育成会から入所施設の開所についての要望書を提出させていただきました。ふじみ野市内に障がい者のための入所施設を作るためのきっかけになればと思っております。回答の中に「今ある資源を有効活用する」と書かれておりますが、今ある資源とは具体的にどのようなものですか。

市長

「今ある資源」とは、現在設置されている既存の施設ということになりますが、公共施設の活用や統廃合につきましても、今後どのように用途変更や誘致、運営していくかということを含めて課題となっております。また、「みよしの里」等につきましても、フロア拡張の要望をいただいておりますので、実現できるようにしたいと思っております。また、近年、民間事業者も参入してきておりますので、それも含めましてご要望に応えられればと考えております。

参加者

事前質問及び回答1では、重度の知的障がい者となっておりますが、重度の障がい者だけでなく、親が亡くなってしまった後の障がい者は一人になってしまい、自分の年金と少ない収入で暮らしていかなければなりません。それができるところは、グループホームか入所施設ということになると思いますが、選択幅が少ないのが現状です。特に重度の障がい者の場合、親がいなくなった後は、年金暮らししかなくなってしまい、入所施設が必要になります。現在、育成会の年齢も高くなってきているので、できるだけ早く入所施設が欲しいです。遠方に行けば入所施設に入れることもありますが、障がい者には大きなストレスになります。自分たちが育った場所である二市一町、その中でも特にふじみ野市に入所施設があると親も安心できます。現在、公民館

等も建設していると思いますので、もし空き施設などが発生するのであれば、入所施設やグループホームを作っていただければ、私たちも安心できます。

市長

現在、公民館の整備事業を進めておりますが、大井中央公民館につきましては、大井図書館と複合化しますので、大井図書館の場所が空く予定です。しかしながら、敷地があれば入所施設やグループホームが作れるというわけではありません。公共施設の老朽化に伴い、更新や整備、統合していく中での空いた施設の有効活用につきましては、どのように運営していくかも含めて検討してまいります。大井地域にあった保健センターを特定非営利活動法人ラベンダーが運営するライトハウスが利用していますが、永久に使えるというわけではなく、建物が老朽化していて新たな場所を確保しなければならないという課題もあります。今ある施設の有効活用ということも含めて、できるだけ住み慣れた地域にという願いに叶うよう進めてまいります。

司会

それでは、10番に進みます。事前質問10をお読みいただいたうえで質問のある方は、いらっしゃいますか。

【事前質問 10】

特別支援学校卒業後、通所施設より帰宅してからの生活の支援を必要としています。就学期は放課後等デイサービスがあり、大変助かりました。大人になってからの豊かな生活と安定のため、地域活動支援事業をぜひとも進めていただきたいです。

【事前質問10回答】

事業所から帰宅した際の余暇の過ごし方ですが、例として移動支援や行動援護といったサービスの利用が可能です。外出や買い物など楽しみがあることで、翌日に向けた気持ちのリフレッシュや日々の生活が充実したものになると思います。一方で、翌日に備えて体調を整えることも安定した生活を続けるためにも必要なことですので、気持ちと体力のバランスを取りながら、サービスを組み合わせた生活を送って頂ければと思います。障がい者の方が安心して社会生活を送ることができるよう、また、心のより所となれるような居場所づくりをどのように進めていけば良いか他市の事例なども参考にしながら研究してまいります。

参加者

私は移動支援のヘルパーをしています。移動支援や行動援護は一日中移

動し続けなければ移動支援にはなりません。そうすると、一息つける拠点になるものがあると良いと思います。ヘルパーも高齢化が進んでいて、将来の不安もあります。拠点があれば、保護者が送り迎えすることで子ども達は余暇を過ごせますし、市の移動支援に係る予算も減らせるのではないかと思います。

市長

今のお話から現場の実情を伺うことができました。現在、国の制度上もそこまでのものがないのが実態だと思います。富士見市だと精神障がいの方の拠点として、地域活動支援センターを活用しているという事例もありますので、今ある資源の中で併用できるかということをお調べさせていただきます。

参加者

ここ10年くらいで、放課後デイサービスが増えてきて、子どもに合う放課後デイサービスを選べるくらいまでになり、大変ありがたく思っております。しかしながら、放課後デイサービスを利用できるのが当たり前になってしまい、その分卒業後どうすればいいかわからなくなってしまうのではないかと心配もあります。保護者も放課後デイサービスがどういうものかを理解して利用しなければならないと思います。今後、地域生活支援事業はより必要になると思います。生活は卒業後の方が長いので、子どもがふじみ野市でどう豊かに生きていくかを皆で考えていければと思いますのでよろしくお願い致します。

市長

放課後デイサービスは、民間事業者の参入で当たり前のように使えるようになってきましたが、お話のとおり卒業後の方が長いから皆さんでどうするかを考えなければならないというお考えは、ありがたいです。卒業後につきましても皆さんで考えたことを踏まえた上で、私達も考えてまいります。

司会

それでは、全体の質問事項といたします。

参加者

障がいのある方の家族などが新型コロナウイルスに感染した場合、障がいのある方が安心して生活できる場所の確保として、県内のいくつかの施設で一時的な入所受け入れ体制が整備されていると事前質問の回答にありますが、施設とは具体的にはどのような施設でしょうか。

障がい福祉課長

東松山市の「愛弘園」と嵐山町の「嵐山郷」の2か所の入所施設となっています。

参加者

障がい者が陽性になり一人で入院できない場合は、どのような対応になるのでしょうか。

障がい福祉課長

障がい者の状態にもよりますが、その場合は、保健所が個別に判断します。一つの例としましては、子どもが新型コロナウイルス感染症で陽性になり、一人でホテル生活や入院ができない場合、家族全員が陰性になるまで誰とも接触しないという指示のもと、家庭内で過ごす人がいたと聞いております。

市長

保護者が陽性になり、子どもが一人で生活できない場合等に一緒に入院などができる場合もあると聞いております。保健所に報告いただくと県の感染症対策課が対応を検討します。受け入れ側の施設につきましても埼玉県も様々な医療機関に声をかけていると聞いております。新たな課題にも対応できるように埼玉県がケースバイケースで対応を検討していただいております。

参加者

ふじみ野市のインフルエンザ予防接種は、小学6年生から中学3年生・妊婦・高齢者は無料ですが、障がい者に関しては有料です。障がい者の中にはマスクができない方もいますし、施設内でクラスターが発生してしまう場合もあるので、無料で予防接種を受けられるようにしていただければと思います。また、PCR検査も、65歳以上の高齢者は、5000円で検査を受けられるので、障がい者も同じ対象にいただけないかと思います。

障がい福祉課長

インフルエンザ予防接種につきましては、65歳未満の方でも免疫機能に障がいがある方は無料で予防接種を受けることができます。

参加者

そのどれにも該当しない障がい者も、インフルエンザ予防接種の無料や補助をしていただくと、積極的に予防接種を受けてクラスターの可能性を少しでも下げることができるのではと考えています。

市長

PCR検査の補助につきましては、高齢者の無症状の方や市内在住の医療従事者や障がい者施設に勤務する方などに対する補助です。現在、国から補助を受けながら実施しておりますので、今のお話は今後の状況を判断するための重要なご意見として承り、検討いたします。

参加者

近隣の入所施設でクラスターが発生したと聞いています。心配なのは、子ども達からうつるのではなく、職員から子どもたちにつつてしまうことです。職員に対してPCR検査が定期的に行えるようにしていただき、職員からうつることがないようにしていただきたいと思います。

市長

お話のとおり障がい者施設だけでなく、高齢者施設等も含めて、職員からうつってしまう可能性の方が高いと思います。PCR検査は、ウイルス量が増加しないと検査に反応しない場合もあります。2日前に感染者と濃厚接触したと判断され、すぐに検査をしても陽性反応は見られません。濃厚接触者になった場合、陰性でも2週間は自宅待機です。明後日、検査すれば陽性かもしれないのに、陰性として判断される場合もあります。そのため、施設職員に関しましては徹底した感染症予防に努めていただくことが重要だと思います。定期的なPCR検査や抗体検査なども含めて貴重なご意見として承ります。

参加者

就労継続支援B型では難しく、生活介護になった人が増えている印象があります。作業所などの定員枠が増えていてありがたいと思いますが、その中で今後の定員の計画などを教えていただければと思います。

障がい福祉課長

生活介護の定員は、おおい作業所の定員が8名から10名、大井デイケアセンターの定員が（大井総合福祉センター1階を改修中）20名から令和4年に25名を予定しています。

参加者

インフルエンザ予防接種について、現在障害者手帳を交付されている方は、4,259人であり、この中から中学3年生までと65歳以上以外の方への予防接種となるとと思いますので、他の高齢者や小中学生などに比べると少ないと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

市長

対象となりうる主な年齢は16～64歳ですので、人数などを調べてみます。

参加者

インフルエンザ予防接種の無料化や補助とまではいかないまでも、優先していただければと思います。予防接種が受けられない場合もあり、妊婦や喘息持ちの方は優先されているので、手帳を持った人も同じように優先にしていきたいです。

市長

新型コロナウイルス感染症の影響で、インフルエンザ予防接種をする人も増えています。製造が追いついていない状況かと思っています。補助などと含めて貴重なご意見として承ります。

参加者

今年の8月に全国の特別支援学級の部屋数が3162室も不足しているとニュースになっていました。埼玉県では5月現在で187室不足しているとなっておりますが、ふじみ野市ではどのような状況でしょうか。

また、災害時の避難所となる体育館のトイレやクーラーなどの改修や設置工事の設計をしていると事前質問の回答にあります。一度に全ての学校はできないと思います。風水害などが予想される学校を優先的に実施していただきたいと思います。学校の改築などは何十年に1回のことで改築後のきれいな学校を使える人は限られてきますので、工事の順番付けをしっかりといただければと思います。

市長

体育館より先に校舎を順次大規模改修しておりますが、改修前に利用するお子さんもいれば改修後に利用するお子さんもいます。昔は、体育館のない学校だった年代もありますので、年代的な順序となりますのでご理解いただきたく思います。校舎の大規模改修も老朽化具合で進めております。

地震や風水害等によりご自宅で生活ができなくなった方の避難生活場所として体育館を想定しております。全市民が19の体育館に避難して生活することは想定しておりません。体育館の工事につきましては、ご指摘のとおり、風水害の時期（梅雨～秋）や入学式、卒業式、他の学校との工事時期の重複などを避けて実施していくよう考えております。

学校教育課長

以前は、進学を予定する学校に特別支援学級がない場合、学区外の特別支援学級に進学しておりました。現在は、特別支援学級を必要とする方が一人でもいる場合は、その学校に特別支援学級を設置しております。教室につきましては、少人数教室用の教室を特別支援学級の教室にするなど、特別支援学級の教室を優先的に作るようにしております。教室がないから特別支援学級を作らないということにはならないようにしてまいります。

参加者

各学校で特別支援学級が運営されているので、特別支援学級に通う子どもが進路選択をする場合、進路に関するスケジュールの提示と見学会をしていただければと思います。

学校教育課長

見学会につきましては、毎年10月くらいに5・6年生の子を対象に実施しております。早いと4年生から中学校や高等学校について考えている方もいらっしゃる、見たいとお話があれば、適宜対応しております。長期的なスパンで進路を考えることは必要だと思いますので、学校に保護者のご要望にしっかりと応えるよう指導してまいります。

参加者

特別支援教育は自閉や知的のお子さんを中心に進めていると思いますが、今後は医療的ケアや肢体不自由のお子さんの支援も必要になると考えています。肢体不自由のお子さんの場合は送迎バスに乗せるのも難しいが、保護者が送ることも危ないと聞きます。そういう子どもが地域の学校に通えると、子どもの体力面や地域に障がいのある子どもがいるとわかってもらえる面も含めて良いと思います。

市長

ご要望として承ります。

参加者

指定特定相談支援事業所が1法人開設予定と事前質問の回答にあります。どのような場所でしょうか。

障がい福祉課長

すでに開設いたしました2つは、「相談支援センター竹」と「あいらんど相談支援事業所」で、開設予定は「相談支援事業所ハッピープラスふじみ野教室」を予定しております。

司会

以上で市長と語るふれあい座談会を終了いたします。